



結小だより

- ★自分で学ぶ子
- ★仲よく助け合う子
- ★自分でできたえる子



第3ステップスタート とことんやってみよう！

校長 中野 由美

夏休みが終わりました。校舎に響く明るい声を聞きながら、子どもたちの笑顔を守れる学校でありたい、子どもたちが成長できる学校でありたい、とあらためて思い、第3ステップをスタートします。全校児童には、はじまりの会で次のような話をしました。（抜粋）

（夏の甲子園に出場した県立岐阜商業高校の横山温大選手について）

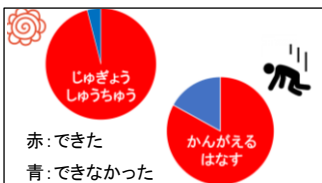
横山選手の左手は、生まれた時から親指しかありません。指がなくても野球がしたい、そう思って小学校3年生から野球を始め・・・もっと上手になりたい・・・中学1年生の時に、グローブを持ち替えて投げるという方法を考え、何百回、何千回も練習・・・

「指がないから無理」ではなく、「指がなくてもできる方法はないか」と考えて考えて、練習して練習して、甲子園で活躍する選手になりました。

横山選手の手のひら・・・硬くて大きなまめがたくさん・・・どれほどたくさん練習しているか・・・「指がないから野球はできない、無理だ」と言ってあきらめませんでした。野球をしたい、上手になりたい、その願いを叶えられるように、指がなくてもできる方法を考えて、練習し続けて、できるようになりました。



私たちはできないことがあるとすぐに、「もう無理」「どうせ無理」「絶対無理」と言ってしまふことがあります。しかし、横山選手は無理と言ってあきらめるのではなく、努力し続けました。「上手になりたい」という願いをもって、とことん努力しました。ちょっとやそっとの努力ではありません。とことんです。そしてついに、甲子園で活躍する選手になったのです。わたしは横山選手から、願いをもって、とことん努力するすばらしさを学びました。



夏休み前の児童アンケート・・・授業に集中しているけれど、じっくり考えて話すことは苦手だという傾向。時間を守るけれど、掃除の取組は中途半端だという傾向。約4人に1人が、自分のよいところが分からない。

・・・第3ステップは、自分の願いをもって、挑戦して、なりたい自分になる！無理と言わずにとことんやってみましょう！

・・・「とことんやってみる」自分、「応援し合う」仲間、そして3つのアップが広がる学校、そんな一人一人、そんな仲間、そんな学校になることを楽しみにしています。



結ぶ手と手が輪になって ～結小学校の輝き～

種から育てた花壇の花



学校の花壇の花が咲き誇っています。夏休み中は職員が水やりを欠かさず、定期的に草を抜き、大切に育ててきました。今年の花は、すべて種から育てました。環境委員の児童が中心となり、種を蒔いて育ててきたものを枯らしてはならない、という気持ちでいっぱいでした。この花壇を、児童にバトンタッチすることができて、とてもほっとしています。

今年の花壇は、児童がデザインしました。「愛のある町 安八」というタイトルで、中央にピンクのハートがあります。もう少ししばらくすると、中央のハートがはっきりしてきます。

昨年度までは、届いた苗を植えるだけでしたが、今年は児童が種を蒔き、水やりをし、デザインを考えて花壇を作りました。



与えられたことだけをやるのではなく、ゼロから汗を流して、心を込めて取り組む喜びを感じてほしいと思っています。環境委員ではない児童も、「芽が出た」「大きくなった」「花が咲いた」「きれいな色」「水をやろう」などと言いながら、随分関心を寄せていました。草花を大切に作る心、美しいと感じる心、愛情をこめて育てる喜びが、学校に広がっていきます。学校にお越しの際は、ぜひ花壇もご覧ください。

夏休みの学校

学校の先生って、夏休みには何をしているのだろう？ 児童からも質問を受けましたので、少し紹介します。



【会議や研修会】

- 職員会議で夏休み明け以降の学校の取組を検討しました。
- 児童のデータを分析し、学力をつけるためにどうしたらよいか、居心地のよい学級にするためにどうしたらよいか等、いろいろなテーマで研修しました。
- 美術指導専門の先生から、図画工作の授業（主に水彩画）について学びました。絵の具を使って実際に描き、授業で大切にしたいことを考えました。
- 大学教授の講話から、子どもの学習理解を深める方法を学びました。



その他、校内環境整備や教材づくりなど、夏休み明けに向けて様々な準備を進めました。職員研修を生かして、授業や児童との活動を進めていきます。お気づきのことがありましたら、お知らせください。職員も精一杯努めてまいります。